薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・

２０２０年
８月５日
第１００号

ヤブガラシ（ブドウ科）

今回も、雑草の内容で申し訳ありません。毎年この時期になりますと、山崎川沿い　フェンスに絡みつき、茎を伸ばし、細い巻きひげを四方八方に伸ばし、その中で平面上に緑色や橙色の花を付けた姿がアチコチで見られるようになり、気になり取り上げました。原産地は東南アジアで日本中の藪や畑の周辺、道端、フェンス等いたる所に見られる多年草です。その旺盛な繁殖力は木や藪（やぶ）をも覆いつくして枯らせてしまうと言われ、これが名の由来となっています。また、家や小屋をも覆いつくし、みすぼらしくすることからビンボウカズラの名もあります。こんな困った雑草ですが、蝶や蜂、ハナアブにとっては大切なご馳走です。全草または根が、烏歛苺（ウレンボ）という生薬となり、日本の民間薬ではで、利尿、鎮痛薬として、中医学では清熱利湿を目的に使用します。また、生の葉を潰して虫刺されのかゆみ止めに用います。

サボンソウ（ナデシコ科）

この猛暑のなかでも、第一圃場では白色の清楚な花が見られます。ヨーロパ原産の多年性草本で、日本には明治の初期、鑑賞用として導入され、広く栽培されています。サボン（シャボン）は、ポルトガル語の石鹸のこと。全草にトリテルペノイドサポニンを含み、ヨーロッパではサボンソウの葉や根を煮出して、液体洗剤として使用していました。また、根茎がサポナリア根という生薬となり、ヨーロッパでの民間薬として去痰薬として、また梅毒や皮膚病にも利用されていたようです。かつて、去痰薬として使用する生薬のセネガの代用とされ使用されたこともありました。

温室の裏でサンゴジュの実がたわわについていますよ！

今、こんな草木がたのしめます！！